

私のセカンドライフ

昭和33年明治大学商学部入学37年卒業、卒業して半世紀が過ぎた。

大阪に就職し奈良県には45年間住んでいる。

定年を迎える数年前から退職したら「何をしようか?」考え始めた。



第一に思いついたのが「パソコンをしよう!」

近くに電子工学卒業の「甥」がいて機械購入からプログラム・ソフト導入

まですべてを任せて二日間で操作可能になった。「ゲーム」「デジカメの設定」

「メールの導入」とフル装備となり、現在では多くの方とメール交換をして楽しんでいる。

次に考えたのは「自分の趣味を生かせることをやりたい」。

私の趣味についてお話しするには小学生のころからお話をしなくてはなりません。それは・・・小学生低学年の頃から「芝居(演劇)」「朗読」をやらされ、四年生のとき町の催で演劇に出演しました。大反響を呼びNHK岡山放送局の要請で「スタジオの中」でその演劇を録音し放送されました。中学、高校と進学しますが何の部活動にも所属しないのだが機会あるごとに特別出演を頼まれ勉強を後回しにして興味を持って参加したものです。

いよいよ高校三年生となり進路を決める時期となった。当時はラジオ放送が唯一の楽しみだった。そんな影響を受け標準語が話せるようになりたい。東京の学校に行こう。当時のNHKのアナウンサー「トンチ教室の青木先生、のど自慢・三つの歌の司会でおなじみの宮田輝、そして高橋圭三」各氏などアナウンサーを夢見てこの方たち卒業の明治大学に入学した次第です。

早速放送研究会に入部し「エイイウエオアオ」と毎日発声練習から始める。当時の部室は記念館講堂の五階にあった。校内放送でニュースを読み、大学連の放送劇コンクールにも参加した。スポーツが得意なものは神宮球場で6大学野球実況放送も練習をした。私は時には、当時の東芝レコードコンサートの解説を担当し学生時代を楽しんだ。またある時には「トンチ教室」の公開録音には「青木先生」に呼び出されて拍手の要請に応じました。NKKは当時、内幸町スタジオがありそこへ行ったものでした。

残念ながらアナウンサー・声優の希望は達成できなかった。

そうだ退職したら、あの実現できなかったこと「声を出して喋ること」何かできないだろうかと思い「NHK文化センター」へ出向き入会し、高梨アナウンサーの「朗読トレーニング」に挑戦した。その時の出会いが今の私のボランティア活動をする動機となった。高梨アナウンサーの傍らの席に、私と同年代の男女が座っていたのです。驚きました! その男性は学生時代の知人、立命館大学のOBと奥様でした。この席にいる理由を聞いたところ、卒業後間もなく失明し「日本ライトハウス」に在籍し「声の図書館」を管理する理事の重責にあり「声の図書館・音声訳」を助けてくれる人をスカウトすると同時にご自分も勉強しているとのことであった。週に一回一年間熱心に通いました。この時「音声訳」という仕事を何となく知り、退職後は目の不自由な人をサポートできるのではないかと思った。その後、「朗読トレーニング」は一人で毎日学生時代を思い出しながら新聞の社説、コラムなど声を出して「ニュース口調」で読む練習を続けた。そして退職した。

退職してしばらく経った頃、「セカンドライフをいかに過ごすか?」というような「フォーラム」が奈良市内であり参加した。そのメインの講演者がこんなことを言ったのでした。

「現在、リタイアされて一日中家の中でゴロゴロされている方、奥様に面倒がられ、喧嘩などされていませんか？」会場から一斉に笑いがおきた。

「そうでしょう・・・給料をもらっていたころは良かったが朝から晩まで一日中家にいますと朝、昼、晩の三度の食事を用意しなくてはなりません。奥方は旦那が家にいては外出も出来ずイライラして夫婦喧嘩となります」 またドット笑い！私をはじめ皆さんが同感されたのでしょう・・・講師が云った。提案します「一週間に3日間外出しなさい。何をしようと皆さんの判断です。世の中には経験豊かな皆さんを歓迎してくれる場所があります」。

そんな時チャンスがあった。退職後半年ほどたった頃「生駒市の広報」で「音声訳講習」の募集の記事を見つけ、よしこれだ！と思い参加した。半年間の講座と訓練を受け、終了後「音声訳ボランティアグループに加わり音声訳を始めた。

「音声訳」が私の趣味を生かせる二つ目のセカンドライフだと張り切って参加した。男性は私一人、ちょっとカッカリ！・・・

始めてみましてこれが大変な仕事でした。音声訳と朗読はまったくといっていいほど違っていた。

*「音声訳」とは、書かれた文字を音声化することを「音訳（音声訳）」といいます。「声を出して読む」ことです。「視覚障害者の目の代わり」をするものですから書いてあることをできるだけ忠実に音声化することが原則です。

*誤読は許されません。読み手の勝手な解釈で、原本を読み替えたり、書かれてないことを付け加えてはならない。

*「上手に読む」ことより「正しく伝える、正しく伝わる」ように読むことが大切。

それではどのように読むのか？

*「音声がきちんと聞き取れる」こと。はっきりとした発音で読むことが大切。と教えられた。

*「読む速さ」はラジオで聞くニュースを読むくらい。アクセントも注意して読むが、完全でなくてよい。

当たり前のことと受け止めたが、やってみて大変なことでした。

「写真・イラスト・挿絵」の説明あり。

「図・表・グラフ」の説明。

「ルビ」が付いているもの。



文章で書かれてないものも詳細に詳しく説明をしながら音訳しなくなりません。小説などを音訳することはありませんでした。大学の先生の依頼で専文書を読むことが多くあり大変でした。音声訳のお話はここまでとします。

音声訳のボランティアをすることがきっかけとなり「奈良 NPO センター」から誘いがあって参加している。

最初の仕事は、奈良 NPO センターを PR すること。新会員の勧誘すること。

*NPO センターを PR するために「奈良ドット FM」において月1回30分間の PR 番組の制作。女子大生、中国の男子高校生そして私、プロデュース担当は現在の奈良市長「仲川げん」の四人私の担当は奈良 NPO センターを PR することで10分間ほどのスピーチ、電波に乗って私の趣味

を生かせることが実現し最高の気分でした。

*企業会員の勧誘のため奈良県内を副理事長・事務局長とお願いに回る。

NPO の働き・役目を説明し企業会員となって資金的援助を依頼することでした。奈良県内に本社がある企業は少なく苦労した。一般企業での経験を生かせると思ったが大変な仕事であった。現在では、「大和川を綺麗にしよう」というイベント、「サマーセミナー」にかかわり協力している。

健康と親交を深めるため「古道を歩く会」に参加している。

毎月第2木曜日、古道を訪ねて平均10Kmを歩く、歴史に詳しく熱心な方が行く先々で詳しく説明を行って楽しい一日を過ごしている。会員は現在80名、134回続いている。



「週に3回外に出て活動をしなさい」を実行！

「奈良アクティブシニアの会（NAS）」に参加。

毎月第3木曜日、夕刻から会合を持つ。30数名の会員で227回続く。

いろいろの趣味を持つ者が集まり、毎回5分間スピーチを3名の者が行う。時に見学会、作品展示会、講演会を開催し教養と親睦を図る会となっている。勿論ささやかな会食を持って解散となる。

「陶芸教室」で創作活動。

今、一番興味を持って月3回、陶芸教室に通い創作活動を行っている。手ひねりで積み上げていく作法で、世界に一つしかない作品が出来上がるるのが楽しみである。皆さんを見て決して上手いと云われるものではなく自己満足して楽しむのが私の主義である。気に入らない作品が多く物置に片付け、満足した作品は家の至る所に置いている。仲間と作品展も開き自己満足している。さらに

「パソコン教室」に通う。

奈良県立図書資料館のパソコン教室で先生にお願いしご教授願っている。会員は20数名で月3回の教室であり、平均年齢は70歳を超えており。基礎的なことは全員習得し、現在では「ワンポイントレッスン」と称してパソコンで出来るいろいろの作法を習っています。勿論春・秋には色々なところに散策に出向いている。

このようにセカンドライフを大いに楽しんでいます。ゴルフは数年前に卒業、「グランドゴルフ」に時に参加します。ゴルフではホールインワンできなかつたことがこちらでは数回できました。

「週3回外で活動しなさい」を教訓に3日に1日活動しています。大病もなく厚生労働省 所管「健康生きがいづくりアドバイザー」の資格取得し自分にアドバイスして健康な毎日を過ごしている次第です。